

# 三木市多文化共生のまちづくりに関する調査報告書（概要版）

## 調査の概要

### 1. 調査目的

本調査は、多文化共生のまちづくりを推進するに当たり、本市に住む日本人住民や外国人住民の多文化共生に関しての意識や考え等を把握し、「三木市多文化共生推進プラン」策定の基礎資料とするため実施。

### 2. 調査の対象と調査方法

調査の種類	対象者	調査方法
①外国人住民アンケート	市内に住む 18 歳以上の外国人住民 200 人	来庁者、日本語教室、市内企業に依頼・回収
②日本人住民アンケート	令和 4 年 6 月 1 日現在、市内に住む 18 歳以上の日本人住民から 2,000 人を無作為に抽出	郵送による配布・回収
③団体ヒアリング調査	市内で外国人支援に携わる団体	郵送及びメールにより調査票を配布。内容をもとに聞き取りを実施。

### 3. 調査時期

調査の種類	調査時期
①外国人住民アンケート	令和 4 年 7 月 1 日から令和 4 年 7 月 29 日まで
②日本人住民アンケート	令和 4 年 6 月 20 日から令和 4 年 7 月 20 日まで
③団体ヒアリング調査	令和 4 年 8 月 22 日から令和 4 年 9 月 30 日まで

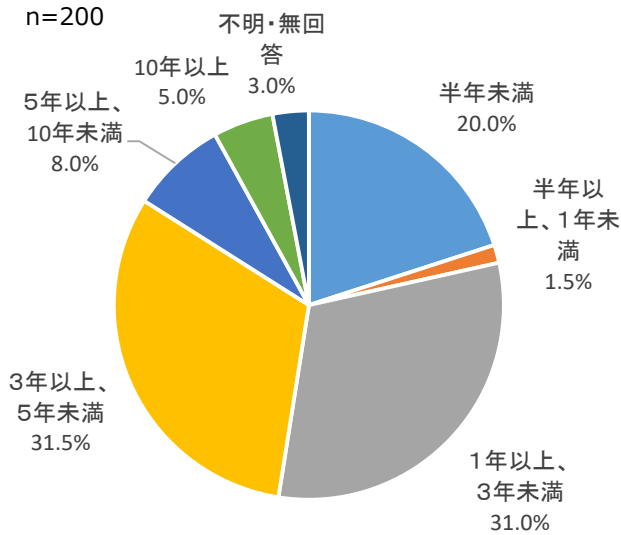
### 4. 回収状況

調査の種類	配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
①外国人住民アンケート	246 通	200 通	81.3%	200 通	81.3%
②日本人住民アンケート	2,000 通	876 通	43.8%	876 通	43.8%
③団体ヒアリング調査	24 団体	24 団体	100.0%	24 団体	100.0%
	うち関係団体	4 団体	100.0%	4 団体	100.0%
	うち自治会	20 団体	100.0%	20 団体	100.0%

## 外国人調査、日本人調査の結果

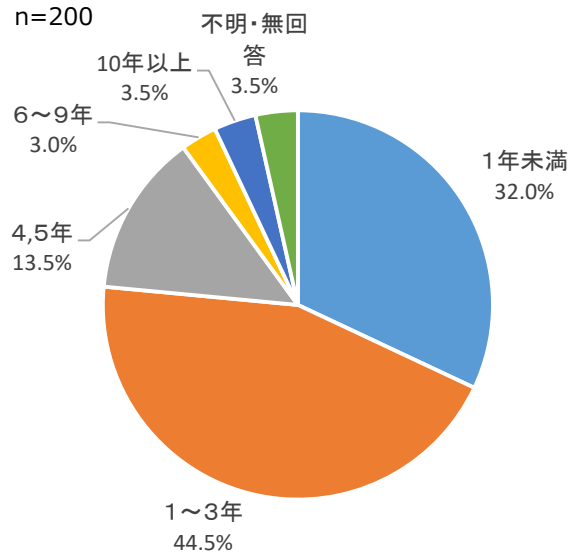
※表中の「n」は回答者数を表しています。

### 外 日本の居住年数



○「3年以上、5年未満」が31.5%で最も多い。

### 外 三木市での居住年数



○「1～3年」が44.5%で最も多い。

### 外 日本語の理解力

#### ①聞く

		(n)	会話が、すべて理解できる	会話が、大体理解できる	ゆっくり話してくれれば、大体理解できる	ゆっくり話してくれれば、少し理解できる	ほとんどわからない	不明・無回答
全体		200	3.5	22.5	39.0	30.0	3.5	1.5
在日 期間	1年未満	43	4.7	4.7	30.2	48.8	7.0	4.7
	1～3年未満	62	1.6	27.4	35.5	33.9	1.6	0.0
	3～5年未満	63	1.6	25.4	42.9	23.8	4.8	1.6
	5年以上	26	11.5	30.8	46.2	11.5	0.0	0.0

○「ゆっくり話してくれれば、大体理解できる」が39.0%で最も多い。

○在日期間別にみると、1年未満の人は「ゆっくり話してくれれば、少し理解できる」、1年以上の人は「ゆっくり話してくれれば、大体理解できる」が最も多い。5年以上の人のみ「会話が、すべて理解できる」が10%台。

## ②話す

	(n)	自分の言いたいことが母語と同じくらい話せる	母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる	単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える	自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える	ほとんど話せない	不明・無回答	
全体	200	3.0	32.5	47.0	11.0	2.0	4.5	
在日期間	1年未満	43	2.3	14.0	48.8	25.6	0.0	9.3
	1～3年未満	62	1.6	35.5	45.2	11.3	3.2	3.2
	3～5年未満	63	3.2	38.1	50.8	6.3	1.6	0.0
	5年以上	26	7.7	46.2	38.5	0.0	3.8	3.8

○「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が47.0%で最も多い。

○在日期間別にみると、5年以上の人は「母語ほどではないが、自分の言いたいことが大体話せる」、5年未満の人は「単語や短い文で、自分の言いたいことが少し言える」が最も多い。1年未満の人は「自己紹介や挨拶ぐらいであれば言える」が20%台と、ほかより多い。

## ③読む

	(n)	生活や仕事に必要な書類等を読んで、十分に理解できる	生活や仕事に必要な書類等を読んで、大体理解できる	漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる	短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる	ほとんど読めない	不明・無回答	
全体	200	2.0	19.0	30.0	36.0	8.5	4.5	
在日期間	1年未満	43	0.0	9.3	20.9	60.5	4.7	4.7
	1～3年未満	62	3.2	22.6	32.3	27.4	11.3	3.2
	3～5年未満	63	3.2	22.2	28.6	31.7	11.1	3.2
	5年以上	26	0.0	23.1	42.3	30.8	3.8	0.0

○「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」が36.0%で最も多い。

○在日期間別にみると、1～3年未満と5年以上の人は「漢字にひらがなでルビが付いていれば、大体理解できる」、1年未満と3～5年未満の人は「短くて簡単な日本語で書いてあれば、大体理解できる」が最も多い。

④書く

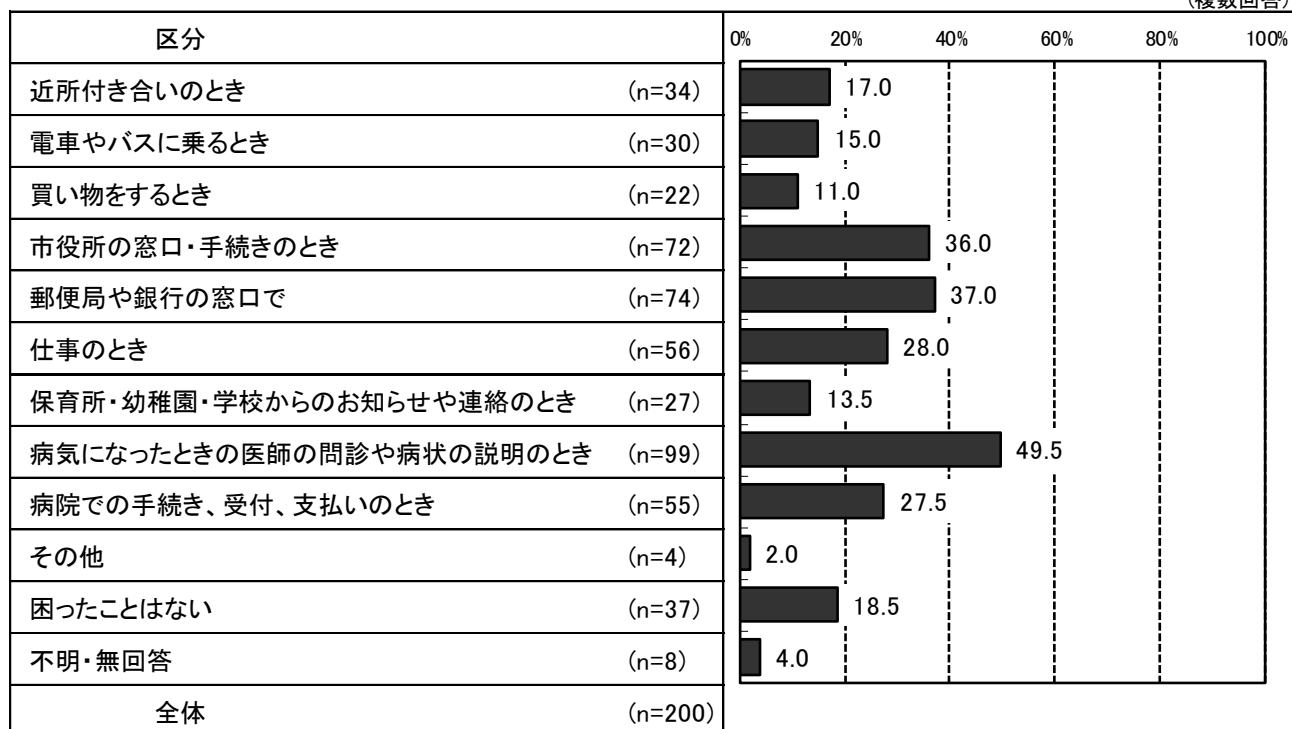
	(n)	生活や仕事に必要な文章がすべて書ける	生活や仕事に必要な文章が大体書ける	漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける	ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける	ほとんど書けない	不明・無回答	
全体	200	0.5	20.0	31.0	36.0	8.0	4.5	
在 日 期 間	1年未満	43	0.0	7.0	14.0	65.1	9.3	4.7
	1～3年未満	62	0.0	21.0	37.1	30.6	8.1	3.2
	3～5年未満	63	0.0	28.6	39.7	20.6	9.5	1.6
	5年以上	26	3.8	19.2	26.9	38.5	3.8	7.7

○「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」が36.0%で最も多い。

○在日期間別にみると、1～3年未満と3～5年未満の人は「漢字を使って、会社や学校の名前、住所等が書ける」、1年未満と5年以上の人は「ひらがなとカタカナで、会社や学校の名前、住所等が書ける」が最も多い。

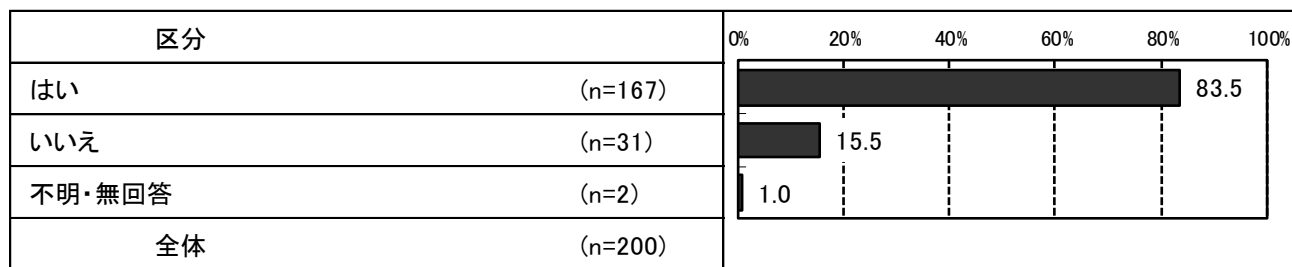
外 日本語を上手に話せなくて困ったことの有無（複数選択可）

(複数回答)



○「病気になったときの医師の問診や病状の説明のとき」が49.5%で最も多く、次いで「郵便局や銀行の窓口で」が37.0%、「市役所の窓口・手続きのとき」が36.0%。

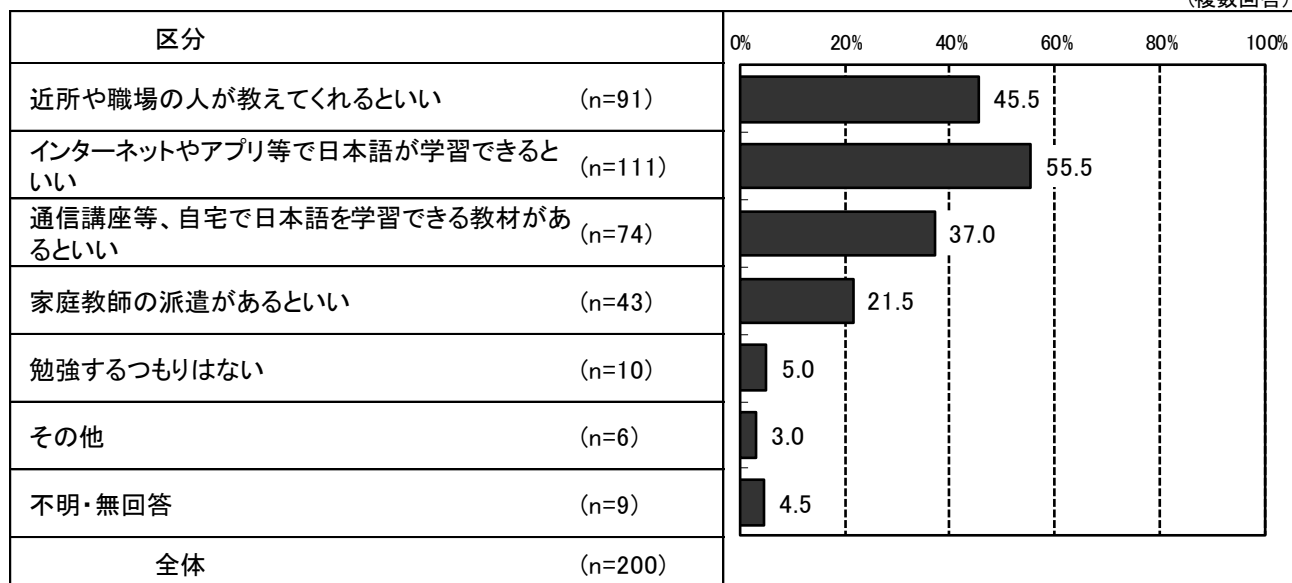
外 今、日本語を学んでいるか



○「はい」が83.5%、「いいえ」が15.5%。

外 今後、どのような日本語学習機会があればいいと思うか（複数選択可）

(複数回答)



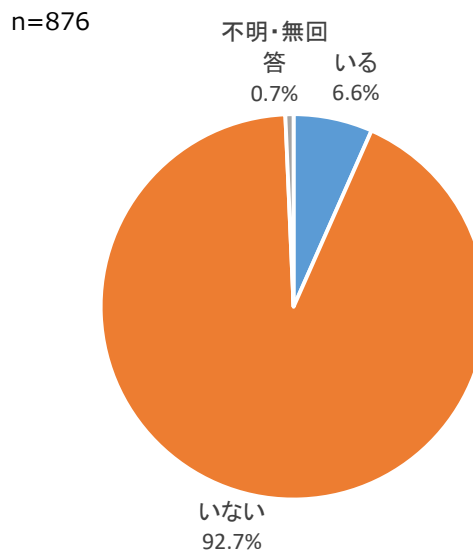
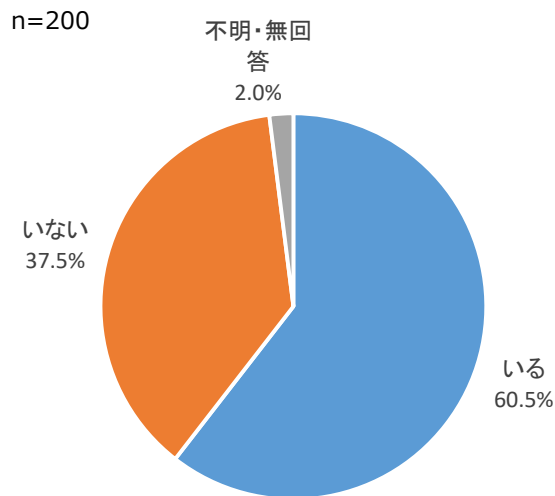
○「インターネットやアプリ等で日本語が学習できるといい」が55.5%で最も多く、次いで「近所や職場の人が教えてくれるといい」が45.5%、「通信講座等、自宅で日本語を学習できる教材があるといい」が37.0%。

■交流状況

問 25 あなたは、三木市に住む日本人の友人や同僚がいますか。

外 三木市に住む日本人の友人や同僚の有無

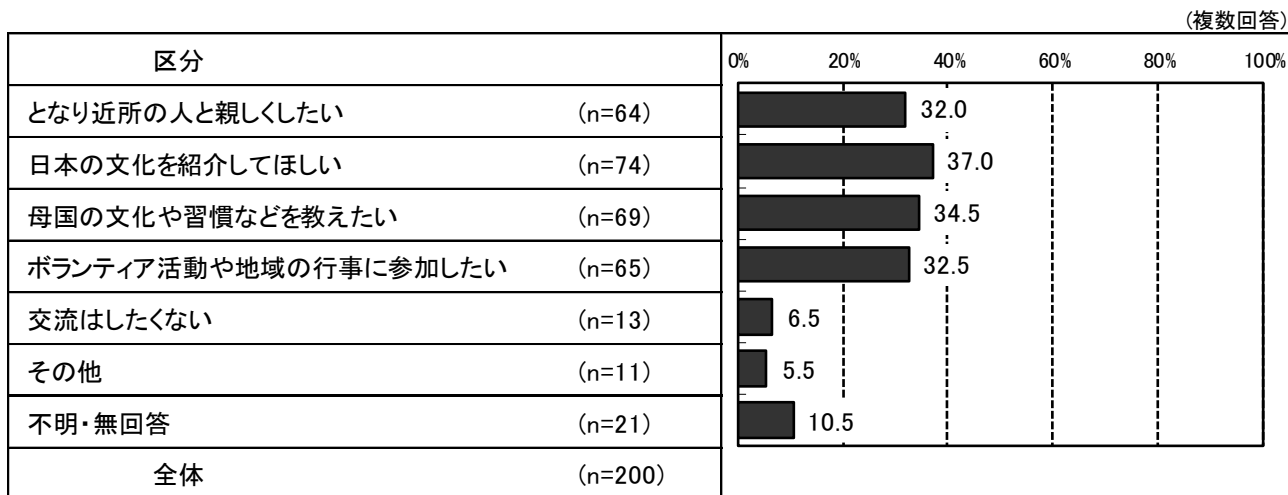
日 三木市に住む外国人の友人や同僚の有無



○ 「いる」が60.5%、「いない」が37.5%。

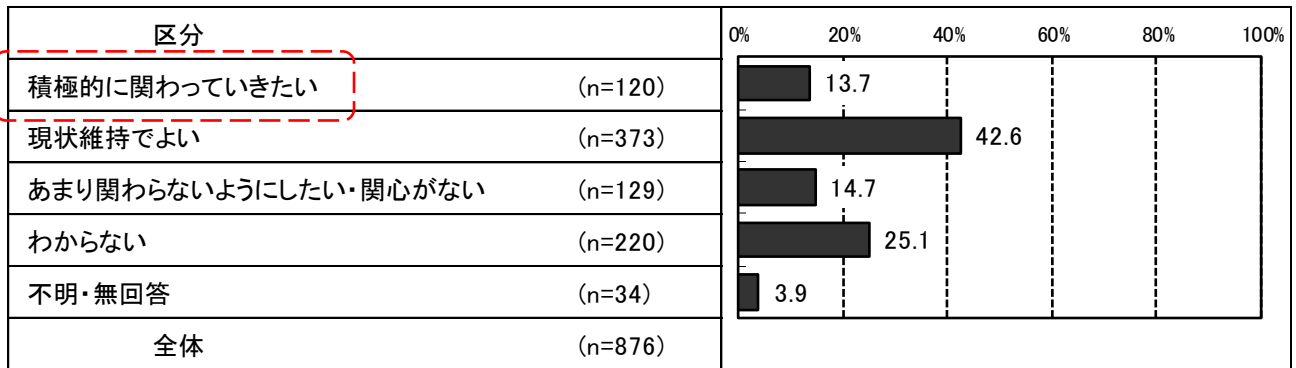
○ 「いない」が92.7%、「いる」が6.6%。

外 あるといいと思う日本人との交流機会（複数選択可）



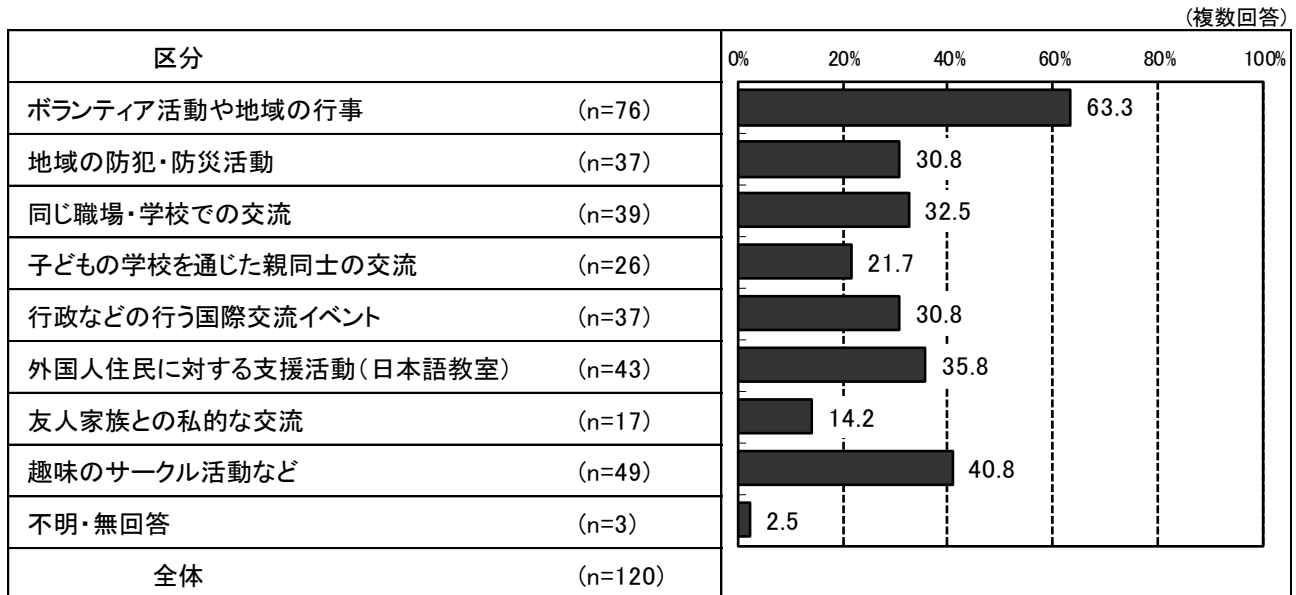
○ 「日本の文化を紹介してほしい」が37.0%で最も多く、次いで「母国の文化や習慣などを教えたい」が34.5%、「ボランティア活動や地域の行事に参加したい」が32.5%。

☐ 外国人とこれからどのように交流していきたいか



○「現状維持でよい」が42.6%で最も多く、次いで「わからない」が25.1%、「あまり関わらないようにしたい・関心がない」が14.7%。

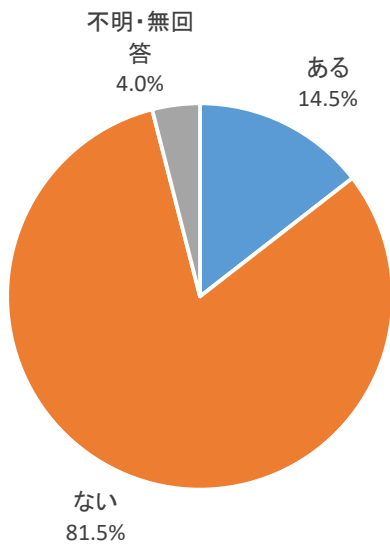
☐ あるといいと思う外国人との交流機会（複数選択可）



○「ボランティア活動や地域の行事」が63.3%で最も多く、次いで「趣味のサークル活動など」が40.8%、「外国人住民に対する支援活動（日本語教室）」が35.8%。

外 三木市での生活で差別を受けた経験

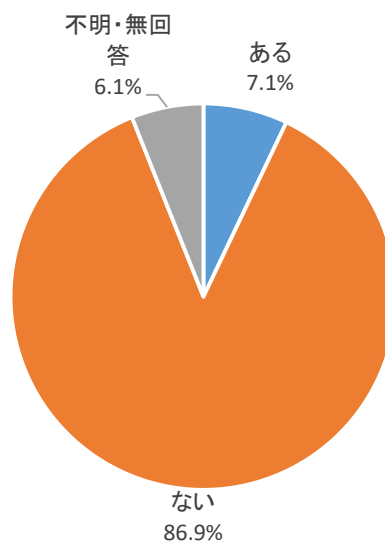
n=200



○ 「ない」が81.5%、「ある」が14.5%。

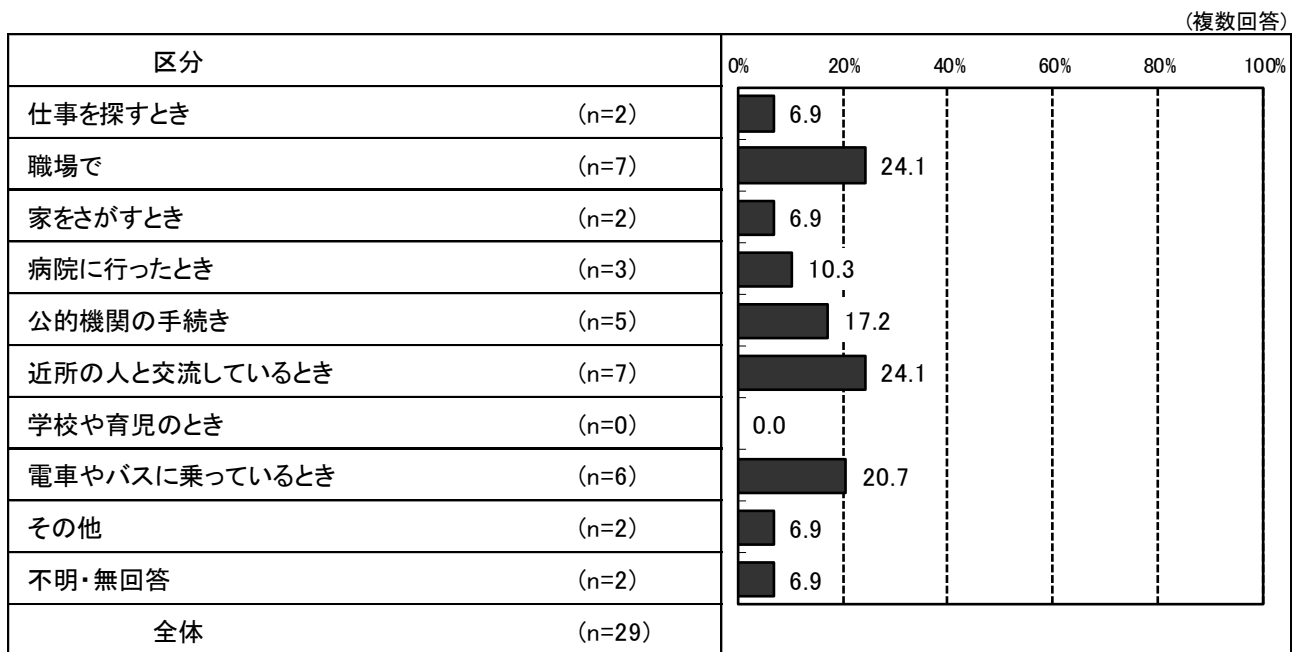
日 外国人との間でのトラブルの経験

n=876



○ 「ない」が86.9%、「ある」が7.1%。

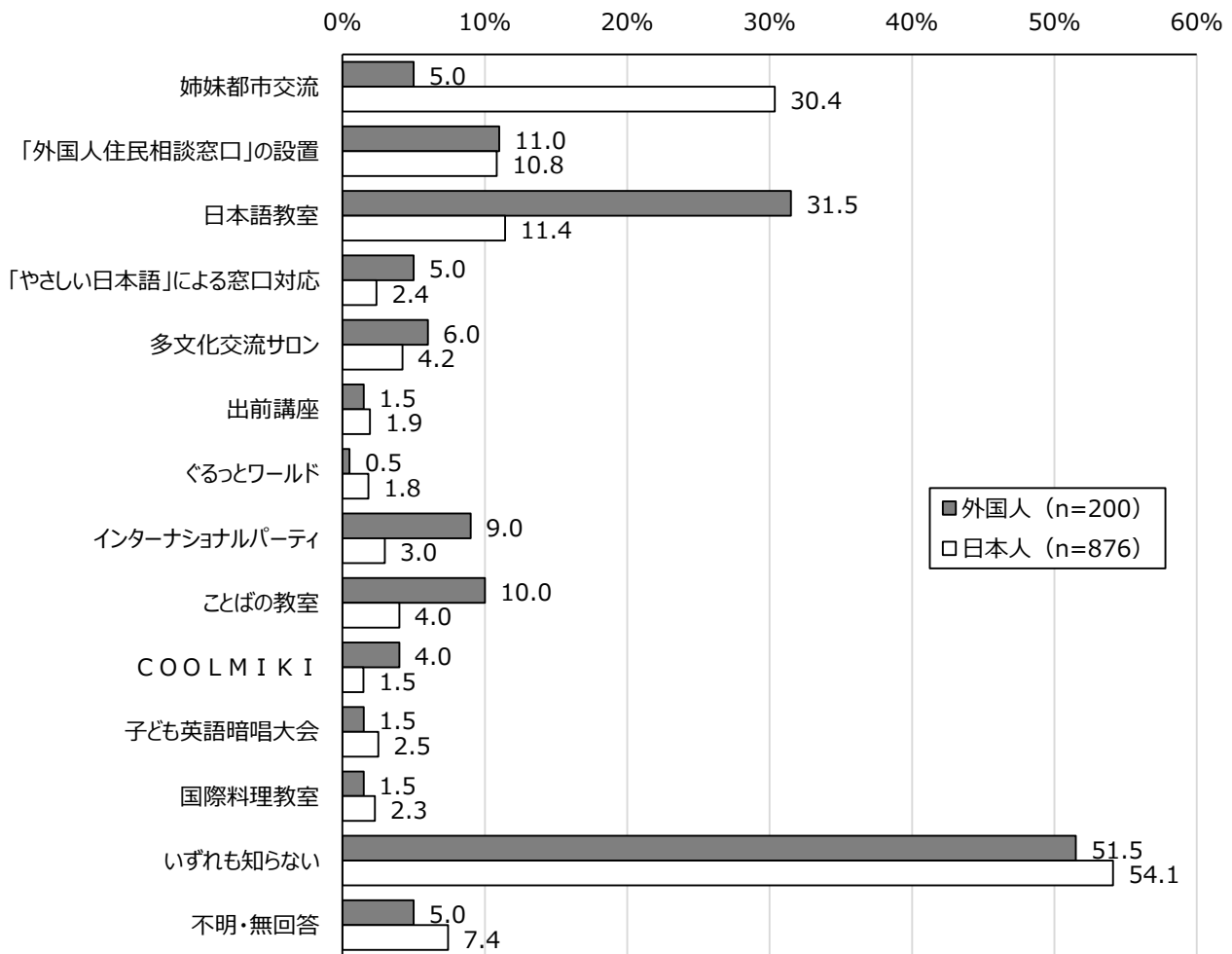
外 具体的に受けた差別の内容（複数選択可）



○ 「職場で」と「近所の人と交流しているとき」が、ともに24.1%で最も多く、次いで「電車やバスに乗っているとき」が20.7%、「公的機関の手続き」が17.2%。



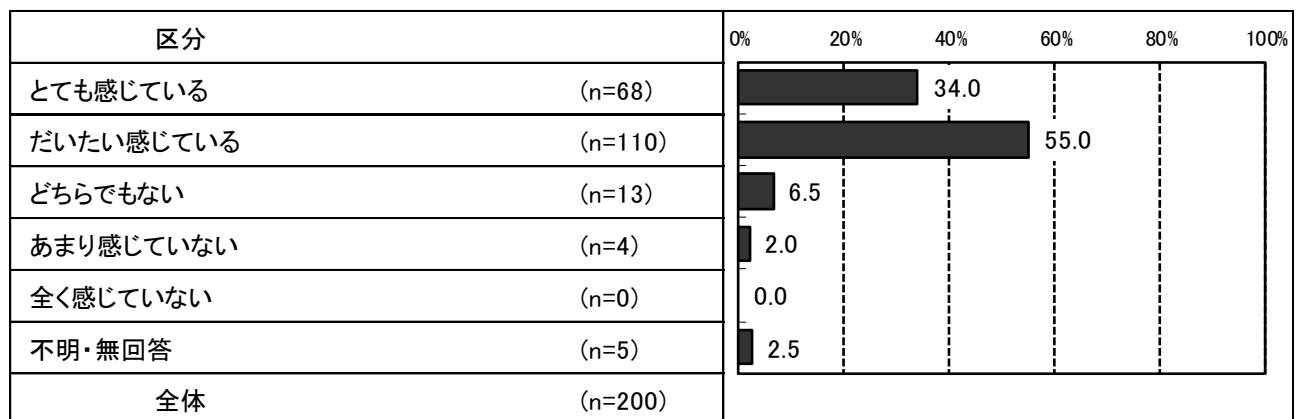
外 回 三木市の取り組みや三木市国際交流協会が実施している事業の認知度（複数選択可）



○外国人は、「いずれも知らない」が51.5%で最も多く、次いで「日本語教室」が31.5%、「外国人住民相談窓口」の設置」が11.0%。

○日本人は、「いずれも知らない」が54.1%で最も多く、次いで「姉妹都市交流」が30.4%、「日本語教室」が11.4%。

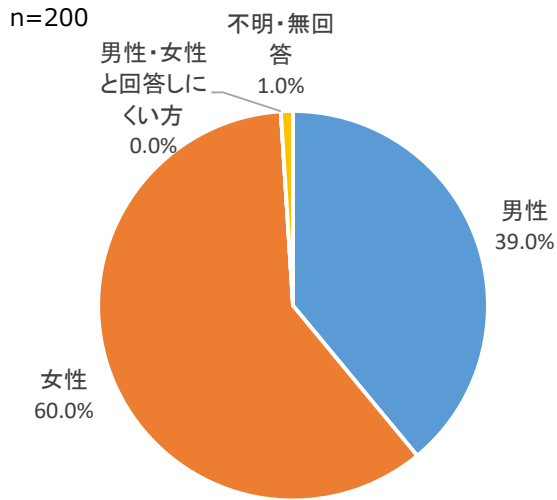
外 三木市に住んで良かったと感じるか



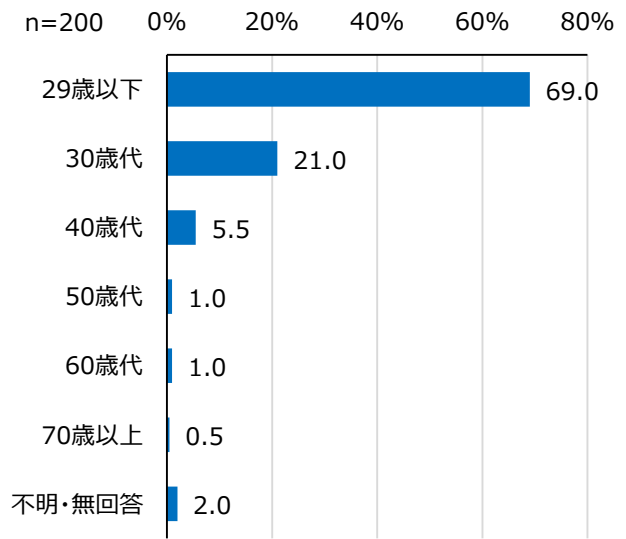
○「だいたい感じている」が55.0%で最も多く、次いで「とても感じている」が34.0%、「どちらでもない」が6.5%。

# 外国人調査、日本人調査の回答者

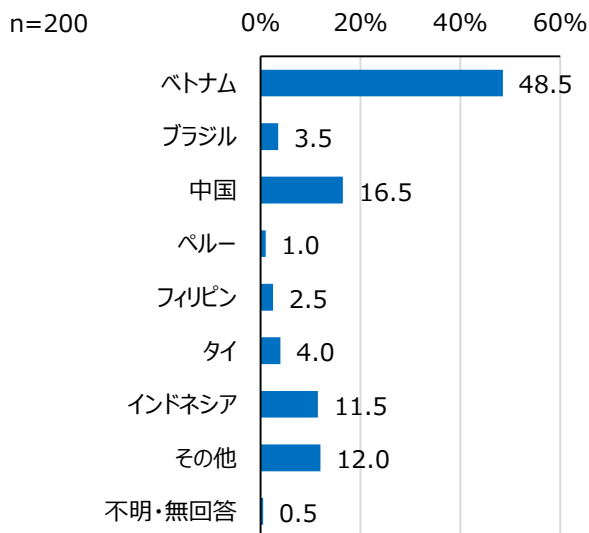
## 外 性別



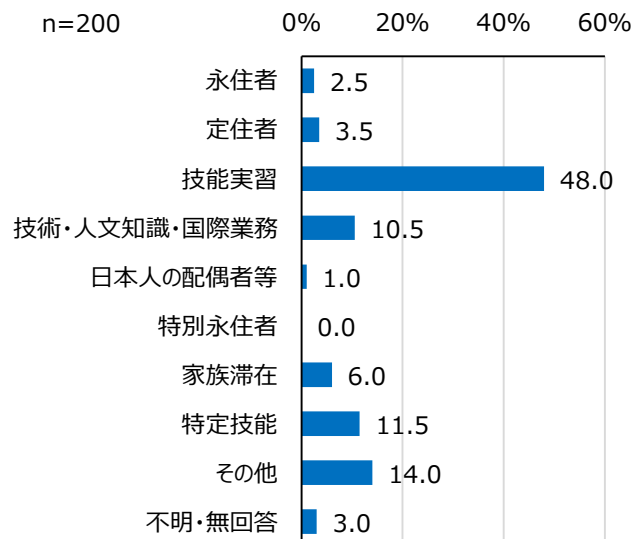
## 外 年齢



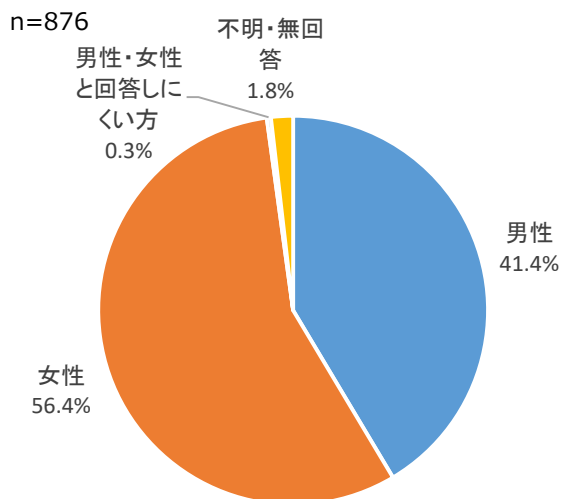
## 外 国籍



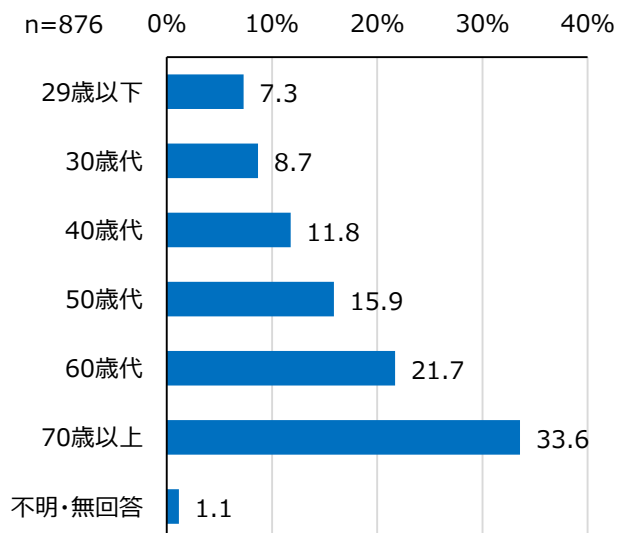
## 外 在留資格



## 日 性別



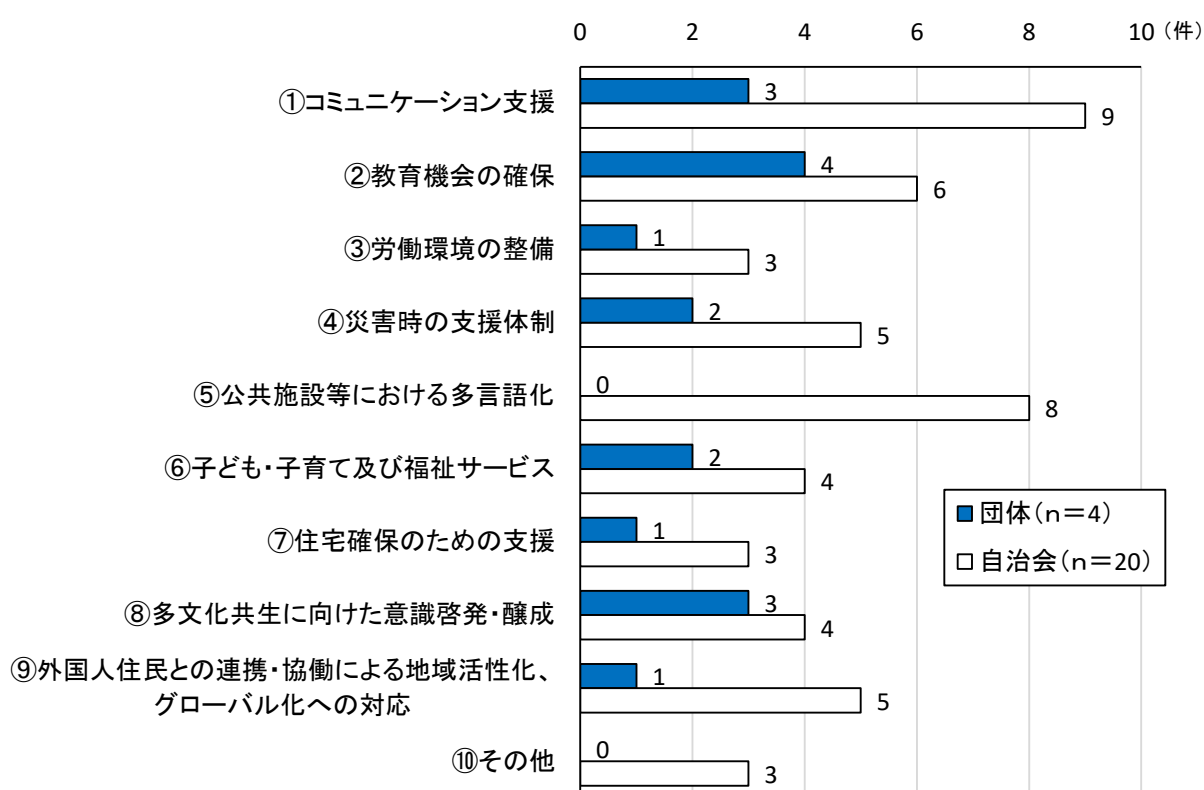
## 日 年齢



## 団体ヒアリングの結果

多文化共生を進めるために取り組んでほしい施策・事業

- 団体ヒアリングでは、すべての団体が「②教育機会の確保」と回答。具体的には外国から来た子どもが日本語の基礎を学べる場、日本語で教育を受ける不便さの解消、親子ともに学べる場といった「学びの場」に関する意見と、教育を受けるための資金援助といった意見が出ている。次いで「①コミュニケーション支援」と「⑧多文化共生に向けた意識啓発・醸成」が続く。
- 自治会ヒアリングでは、「①コミュニケーション支援」が9件で最も多く、次いで「⑤公共施設等における多言語化」が8件、「②教育機会の確保」が6件。
- 団体・自治会ともに「①コミュニケーション支援」「②教育機会の確保」の回答が多い。



### 三木市多文化共生のまちづくりに関する調査報告書

発行：三木市市民生活部市民協働課多文化共生係  
 住所：〒673-0492 兵庫県三木市上の丸町10番30号  
 TEL：0794-82-2000（代表）  
 0794-89-2315（直通）  
 FAX：0794-89-2318

この事業は、一般財団法人自治体国際化協会の助成により実施されています。